

言語聴覚士学科 実務経験のある教員による授業科目一覧

令和7年以降入学生用

医療職業実践専門課程												
言語聴覚士学科 ※講義演習1単位＝15時間、実技含む1単位＝30時間、実験実習1単位＝45時間、臨床実習1単位＝40時間												
科目 区分	科目分野	授業科目	講義 演習	実技 含む	実験 実習	臨床 実習	授業時間数				単位	
							1年次	2年次	3年次	4年次		計
基礎 分野	科学的思考の基礎	新入生ゼミナール	○				30				30	2
		情報処理学・統計学	○				30				30	2
		課題研究（基礎）Ⅰ	○				60				60	4
	社会の理解	社会科学（経済学・倫理学）	○				30				30	2
	言語聴覚療法の基盤	言語聴覚療法 の基礎 （コミュニケーション論）	○				60				60	4
小 計							210	0	0	0	210	14
専門 基礎 分野	人体のしくみ・ 疾病と治療	解剖学	○				60				60	4
		生理学	○				60				60	4
		病理学	○				30				30	2
		発声・発語・聴覚系の構造・機能	○				30				30	2
		神経系の構造・機能・病態	○				60				60	4
		臨床医学Ⅰ 内科・臨床神経学	○					60			60	4
	言語とコミュニケーション	言語学	○				30				30	2
	社会保障・教育とリハビリ テーション	社会福祉と教育	○				30				30	2
小 計							300	60	0	0	360	24
専門 分野	言語聴覚障害学 総論	言語聴覚障害学総論		○			60				60	2
		失語症 臨床技術				○				45	45	1
	失語・高次脳機能障害	高次脳機能障害	○					30			30	2
		高次脳機能障害 臨床技術				○				45	45	1
	言語発達障害学 発声発語・ 摂食嚥下障害学	言語発達障害 臨床技術				○				45	45	1
		嚥下障害 臨床技術				○				45	45	1
	聴覚障害学	成人聴覚障害 実技			○		30				30	1
		補聴器			○				30		30	1
		人工内耳	○						30	15	15	1
小 計							90	60	195	0	345	11
合計							600	120	195	0	915	49

令和3～6年入学生用

医療職業実践専門課程												
言語聴覚士学科												
科目 区分	科目分野	授業科目	講義 演習	実技 含む	実験 実習	臨床 実習	講義演習1単位＝15時間 実技含む1単位＝30時間 実験実習1単位＝45時間 臨床実習1単位＝40時間					
							1年次	2年次	3年次	4年次	計	単位
基礎 分野	人文学	ライティング	○					15			15	1
		課題研究（基礎）Ⅱ		○				60			60	2
専門 基礎	心理学	心理測定法	○							15	15	1
専門 分野	失語・高次脳機能障害	失語症学	○					30			30	2
	発声発語嚥下	機能性・器質性構音障害		○				30			30	1
		嚥下障害学	○					30			30	2
	臨床実習	言語聴覚障害 実技指導Ⅰ		○				60			60	2
		言語聴覚障害 実技指導Ⅱ		○						120	120	4
言語聴覚障害 実技指導Ⅲ			○						120	120	4	

成績の評価及び履修認定について

(授業科目履修の認定に係る学則)

第 23 条 授業科目の履修に関しては、授業時間数の 3 分の 2 以上出席し、試験に合格した者に、所定の単位を与える。ただし平素の学習状況又は論文等をもって試験に代えることができる。

- 2 試験の成績の評価は、秀、優、良、可又は不可とし、秀、優、良及び可を合格とする。
- 3 前項の秀は 90 点、優は 80 点、良は 70 点、可は 60 点割を基準とし、総合的な評価を行なう。

(GPA の導入について)

GPA (Grade Point Average) とは、履修した科目 1 単位あたりの成績平均点を算出する方法であり、GP に該当科目の単位数を乗じて合計し、総単位数で除して履修した科目 1 単位あたりの成績平均点を算出する。計算結果は小数点以下第 3 位を切り捨てして表記する。

1 成績評価の適切な取組の概要

成績評価については、「秀(90点)、優(80点)、良(70点)、可(60点)、不可」の 5 段階で評価し、可以上で合格となる。また、GP (Grade Point) としては、「秀は 4.0、優は 3.0、良は 2.0、可は 1.0、不可は 0.0」とする。

GPA 算出式

$$GPA = \frac{(\text{履修科目の単位数} \times \text{ポイント}) \text{の合計}}{\text{履修した講義の総単位数}}$$

2. GPA の種類

GPA は年度ごとに算出したもの (年度 GPA)、入学時から現在の学期まで通算したもの (累積 GPA) があり、その計算方法は次のとおり。

①年度 GPA

当該年度に履修し成績評価を受けた授業科目全体の GP 合計を当該年度の履修総単位数で除して算出する。

②累積 GPA

入学時から現在の学期までに履修し成績評価を受けた授業科目全体の GP 合計を入学時からの履修総単位数で除して算出する。

科目区分	基礎	授業科目	新入生ゼミナール		時間数	30	単位数	2
授業形態	■講義演習 □実技含む □実験実習 □臨床実習				必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	■前期 □後期 □通年		火 曜日 1 限		学 年	1年	講義室等	202
科目責任者	小山宏和			科目担当者	小山宏和			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	回復期病院：3年、訪問看護：4年、教員業務：4年、共生型施設：4年							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法 （割合）		
言語聴覚士養成校である本校の4年間について、見通しを持ち、主体的に授業に取り組む姿勢の基盤を形成する。						定期試験 実技試験 実習評価		
授業の概要						小テスト		
医療系専門学校生としての基本的知識を養うこと、クラス内他学科、他学年と交流することで視野を広げる。						レポート その他 100% 計 100%		
教科書						履修条件、履修上の注意事項		
参考書	なぜか結果を出す人が勉強以前にやっていること							
授 業 の 計 画								
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当	
第1回	オリエンテーション		小山	第1回				
第2回	学校生活について		小山	第2回				
第3回	授業の内容について		小山	第3回				
第4回	先輩インタビュー		小山	第4回				
第5回	先生インタビュー		小山	第5回				
第6回	まとめ		小山	第6回				
第7回	振り返り		小山	第7回				
第8回	情報の取得・活用について		小山	第8回				
第9回	レポート課題について		小山	第9回				
第10回	学習スタイルについて		小山	第10回				
第11回	定期試験について		小山	第11回				
第12回	言語聴覚士について①		小山	第12回				
第13回	言語聴覚士について②		小山	第13回				
第14回	言語聴覚士について③		小山	第14回				
第15回	まとめ		小山	第15回				

科目区分	基礎	授業科目	情報処理学・統計学		時間数	30	単位数	2
授業形態	■講義演習 □実技含む □実験実習 □臨床実習				必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	■前期 □後期 □通年		木 曜日 2 限		学 年	1年	講義室等	201
科目責任者	望月崇司			科目担当者	望月崇司			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	回復期リハビリテーション：5年、急性期リハビリテーション：2年							
	教員業務：9年（急性期・回復期病院での非常勤職員：9年、老人保健施設での非常勤職員：4年）							
	日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士、臨床神経心理士							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法 （割合）		
①基本的なパソコン操作について学ぶ						定期試験		
②医療論文の作成に必要な統計技能を学ぶ						実技試験		
③よく用いる統計解析法の目的と解析方法について学ぶ						実習評価		
④統計解析ソフトを使用できるようになる								
授業の概要						小テスト		
講義・演習形式で学んでいく。 適宜、演習を行い統計レポートの作成を行う。						レポート		70%
						その他		30%
						計		100%
教科書	リハビリテーションのための統計学（医歯薬出版）					履修条件、履修上の注意事項		
参考書								
授 業 の 計 画								
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当	
第1回	Teamsについて		望月	第16回				
第2回	ワードの使用、実技		望月	第17回				
第3回	ワードの使用、実技		望月	第18回				
第4回	ワードの使用、実技		望月	第19回				
第5回	パワーポイントの使用、実技		望月	第20回				
第6回	パワーポイントの使用、実技		望月	第21回				
第7回	Excelの使用		望月	第22回				
第8回	平均値・中央値		望月	第23回				
第9回	平均・分散・標準偏差		望月	第24回				
第10回	統計解析の演習		望月	第25回				
第11回	パラメトリック検定		望月	第26回				
第12回	ノンパラメトリック検定		望月	第27回				
第13回	相関分析		望月	第28回				
第14回	χ ² 検定、Fisher検定		望月	第29回				
第15回	まとめと総合問題		望月	第30回				

科目区分	基礎	授業科目	課題研究(基礎)Ⅰ		時間数	60	単位数	4
授業形態	■講義演習 □実技含む □実験実習 □臨床実習				必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	□前期 □後期 ■通年		月 曜日 2 限		学 年	1年	講義室等	202
科目責任者	小山宏和			科目担当者	小山宏和			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	回復期病院：3年、訪問看護：4年、教員業務：4年、共生型施設：4年							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法 (割合)		
各自興味のあるテーマについて研究しレポートを作成する 年度末に行われる全学年参加の「症例検討会・研究発表会」で発表する						定期試験 実技試験 実習評価		
授業の概要						小テスト		
研究内容ごとに指導教員が異なります。適宜指導を受けながら進める必要があります。長期的なスケジュール管理も行っていきましょう。						レポート その他 100% 計 100%		
教科書						履修条件、履修上の注意事項		
参考書								
授 業 の 計 画								
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当	
第1回	課題研究の概要説明		小山	第16回	テーマ決め		小山	
第2回	昨年度の研究確認		小山	第17回	テーマ決め		小山	
第3回	テーマ決め		小山	第18回	研究		小山	
第4回	テーマ決め		小山	第19回	研究		小山	
第5回	研究		小山	第20回	研究		小山	
第6回	研究		小山	第21回	研究		小山	
第7回	研究		小山	第22回	研究		小山	
第8回	研究		小山	第23回	発表準備		小山	
第9回	研究		小山	第24回	発表準備		小山	
第10回	発表準備		小山	第25回	発表準備		小山	
第11回	発表準備		小山	第26回	発表		小山	
第12回	発表準備		小山	第27回	発表		小山	
第13回	発表準備		小山	第28回	発表		小山	
第14回	発表		小山	第29回	まとめ		小山	
第15回	発表		小山	第30回	まとめ		小山	

科目区分	基礎	授業科目	社会科学(経済学・倫理学)		時間数	30	単位数	2
授業形態	■講義演習 □実技含む □実験実習 □臨床実習				必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	□前期 □後期 ■通年	月・火 曜日 4 限			学 年	1年	講義室等	202
科目責任者	小山宏和			科目担当者	小山宏和			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	回復期病院：3年、訪問看護：4年、教員業務：4年、共生型施設：4年							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法 (割合)		
経済学：経済の仕組みについて理解し持論を持つ 倫理学：日常に潜む倫理問題から生命倫理まで幅広く取り扱い理解を深める						定期試験 実技試験 実習評価		
授業の概要						小テスト	25%	
講義だけでなくグループワークを通じクラスメイトと意見交換する時間を設けます						レポート	25%	
						その他	50%	
						計	100%	
教科書	経済学：今さら聞けない！経済のキホンが2時間で全部頭に入る 倫理学：はじめて学ぶ生命倫理					履修条件、履修上の注意事項		
参考書								
授 業 の 計 画								
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当	
第1回	オリエンテーション		小山	第1回	オリエンテーション		小山	
第2回	資本主義について		小山	第2回	倫理問題について		小山	
第3回	金融政策		小山	第3回	倫理問題について		小山	
第4回	社会保障制度		小山	第4回	生命倫理について		小山	
第5回	貨幣について		小山	第5回	生命倫理について		小山	
第6回	〇〇主義について		小山	第6回	安楽死について		小山	
第7回	金融教育について		小山	第7回	医療従事者と倫理		小山	
第8回	まとめ		小山	第8回	まとめ		小山	
第9回				第9回				
第10回				第10回				
第11回				第11回				
第12回				第12回				
第13回				第13回				
第14回				第14回				
第15回				第15回				

科目区分	基礎	授業科目	言語聴覚療法の基礎		時間数	60	単位数	4
授業形態	■講義演習 □実技含む □実験実習 □臨床実習				必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	□前期 □後期 ■通年		水・月 曜日 3・4 限		学 年	1年	講義室等	202
科目責任者	小山宏和			科目担当者	小山宏和・渋谷純子			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	小山：回復期病院：3年、訪問看護：4年、教員業務：4年、共生型施設：4年							
	渋谷：回復期病院：2年、急性期病院：7年、障害者総合支援センター：2年							
	各種地域支援事業：15年							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法 （割合）		
言語聴覚療法の基礎となるコミュニケーションについて学び、実践する						定期試験		
						実技試験		
						実習評価		
授業の概要						小テスト		
						レポート		
講義だけでなく実践する時間を多く取っていきます。						その他		100%
						計		100%
教科書	コミュニケーション論・多職種連携論					履修条件、履修上の注意事項		
参考書	わかりあえないことから コミュニケーション能力とは何か							
授 業 の 計 画								
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当	
第1回	オリエンテーション		小山	第16回	前期振り返り		渋谷	
第2回	コミュニケーションについて		小山	第17回	コミュニケーション振り返り		渋谷	
第3回	コミュニケーションについて		小山	第18回	コミュニケーション実践①		渋谷	
第4回	コミュニケーションについて		小山	第19回	コミュニケーション実践②		渋谷	
第5回	コミュニケーションの種類について		小山	第20回	コミュニケーション実践③		渋谷	
第6回	コミュニケーションの種類について		小山	第21回	対象別の伝達振り返り		渋谷	
第7回	コミュニケーションの手法について		小山	第22回	対象別の伝達実践①		渋谷	
第8回	対象別の伝達について		小山	第23回	対象別の伝達実践②		渋谷	
第9回	対象別の伝達について		小山	第24回	医療面接振り返り		渋谷	
第10回	医療面接について		小山	第25回	医療面接実践①		渋谷	
第11回	多職種連携とチーム医療		小山	第26回	多職種連携振り返り		渋谷	
第12回	多職種連携とチーム医療		小山	第27回	多職種連携実践①		渋谷	
第13回	リーダーシップ論		小山	第28回	多職種連携実践②		渋谷	
第14回	リスクマネジメント		小山	第29回	まとめ		渋谷	
第15回	まとめ		小山	第30回	まとめ		渋谷	

科目区分	専門基礎	授業科目	解剖学			時間数	60	単位数	4
授業形態	■講義演習 □実技含む □実験実習 □臨床実習					必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	□前期 □後期 ■通年		金 曜日 4 限			学 年	1 年	講義室等	202
科目責任者	中村和男				科目担当者	中村和男			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	回復期リハビリテーション 3年								
	介護福祉施設 5年								
	教員業務 5年								
授業のねらい、到達目標							成績評価の方法 (割合)		
医療の基礎である解剖学についての学び、人体の構成と機能を理解する							定期試験	80%	
							実技試験		
							実習評価		
授業の概要							小テスト	10%	
正常な人体の骨格や筋肉などの構造を知り、各々の役割や働きについて知る。正常な内蔵系を構成する器官系、組織の形態、構造の特徴について学ぶ							レポート	10%	
							その他		
							計	100%	
教科書	ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版						履修条件、履修上の注意事項		
参考書									
授 業 の 計 画									
〈 前 期 〉				担当	〈 後 期 〉				担当
第1回	体の区分、面や方向を示す用語			中村	第16回	頭部・頸部の血管、神経			中村
第2回	全身の骨格、骨の構造			中村	第17回	脳を保護する仕組み、脳の仕組み			中村
第3回	関節の形態、全身の筋肉			中村	第18回	脳の内部構造、小脳・脳幹			中村
第4回	筋肉の構造、筋肉の種類			中村	第19回	目の構造、物が見える仕組み			中村
第5回	循環器系の概要、全身の血管			中村	第20回	鼻の構造、においを感じる仕組み			中村
第6回	血管の構造、血液成分			中村	第21回	口の構造、味覚を感じる仕組み			中村
第7回	免疫の仕組み、リンパ系			中村	第22回	胸壁、胸部の内臓、肺の構造			中村
第8回	消化器系の概要、消化と吸収			中村	第23回	呼吸の仕組み、ガス交換			中村
第9回	呼吸器系の概要、泌尿生殖器の概要			中村	第24回	心臓の構造、刺激伝導系、拍動、血管			中村
第10回	内分泌系の概要、中枢神経・末梢神経			中村	第25回	脊柱、骨盤、腹部の内臓			中村
第11回	神経の仕組み、神経伝達の仕組み			中村	第26回	胃と十二指腸、胃の粘膜			中村
第12回	脳神経の仕組み、脊髄神経の仕組み			中村	第27回	小腸の構造、大腸・肛門の構造			中村
第13回	運動・知覚・自律神経			中村	第28回	肝臓・胆嚢の構造、はたらき			中村
第14回	皮膚の構造、機能			中村	第29回	膵臓、腎臓、膀胱の構造			中村
第15回	頭部・頸部の骨、筋肉			中村	第30回	テスト対策			中村

科目区分	専門基礎	授業科目	生理学			時間数	60	単位数	4
授業形態	☒ 講義演習 ☐ 実技含む ☐ 実験実習 ☐ 臨床実習					必・選	☒ 必修 ☐ 選択必修		
学期区分	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年		月 曜日 1 限			学 年	1 年	講義室等	202
科目責任者	三井由香				科目担当者	三井由香			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	長野医療衛生専門学校言語聴覚士学科兼任講師（2017） 長野保健医療大学准教授（2022）								
授業のねらい、到達目標							成績評価の方法（割合）		
健康な状態とは、体の状態が、良い状態で一定に保たれている状態である。この恒常性は様々な細胞や、細胞からなる器官が協調して働いて維持される。恒常性が破綻すると疾病を引き起こす。生理学では、細胞と、細胞からなる様々な器官の働きを学ぶ。またそれらの働きを調節する神経系、内分泌系の仕組みを学び、生きているとはどういうことかを生理学的に考える。							定期試験	95%	
							実技試験		
							実習評価		
授業の概要							小テスト	5%	
1、細胞と、細胞からなる生命維持に重要な、循環、呼吸、消化、排泄などの生理機能を学び、内部環境が維持されていることを理解する。2、内分泌と神経、筋肉の特徴、神経系、感覚系を学び、神経と内分泌によって運動機能、感覚機能、内臓機能が調節されることを理解する。							レポート		
							その他		
							計	100%	
教科書	系統看護学講座専門基礎 「解剖生理学」 坂井建雄他 医学書院						履修条件、履修上の注意事項		
参考書	分からないところをそのままにせず、調べる、聞きに来るなどして解決してから進んでください。								
授 業 の 計 画									
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当		
第1回	細胞1		三井	第16回	内分泌系1		三井		
第2回	細胞2		三井	第17回	内分泌系2		三井		
第3回	遺伝子とその発現		三井	第18回	内分泌系3		三井		
第4回	血液1		三井	第19回	生殖器系		三井		
第5回	血液2		三井	第20回	神経系1		三井		
第6回	免疫		三井	第21回	神経系2		三井		
第7回	循環器系1		三井	第22回	骨格筋の収縮		三井		
第8回	循環器系2		三井	第23回	シナプス伝達		三井		
第9回	呼吸器系1		三井	第24回	自律神経系		三井		
第10回	呼吸器系2		三井	第25回	脳と脊髄1		三井		
第11回	消化吸収1		三井	第26回	脳と脊髄2		三井		
第12回	消化吸収2		三井	第27回	運動系1		三井		
第13回	体温調節		三井	第28回	運動系2		三井		
第14回	排泄1		三井	第29回	感覚系		三井		
第15回	排泄2		三井	第30回	特殊感覚		三井		

科目区分	専門基礎	授業科目	病理学		時間数	30	単位数	2
授業形態	■講義演習 □実技含む □実験実習 □臨床実習				必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	□前期 ■後期 □通年		木 曜日 2 限		学 年	1年	講義室等	202
科目責任者	小山宏和			科目担当者	小山宏和			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	回復期病院：3年、訪問看護：4年、教員業務：4年、共生型施設：4年							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法 (割合)		
様々な疾患の基礎となる、疾病機序の知識を整理して理解する						定期試験 50%		
						実技試験		
						実習評価		
授業の概要						小テスト 30%		
疾患がどのような仕組みで成り立っているのかを教科書をベースに紹介する 言語聴覚士として必要な疾患について各論でふれます						レポート		
						その他 20%		
						計 100%		
教科書	標準理学療法・作業療法学 病理学第5版					履修条件、履修上の注意事項		
参考書						毎時間ごとに振り返りを行います		
授 業 の 計 画								
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当	
第1回				第1回	オリエンテーション			小山
第2回				第2回	病理学(内因・外因)			小山
第3回				第3回	進行性・退行性病変			小山
第4回				第4回	循環障害			小山
第5回				第5回	テスト、振り返り			小山
第6回				第6回	炎症			小山
第7回				第7回	感染症			小山
第8回				第8回	腫瘍			小山
第9回				第9回	テスト、振り返り			小山
第10回				第10回	先天異常・奇形			小山
第11回				第11回	老化			小山
第12回				第12回	免疫			小山
第13回				第13回	テスト、振り返り			小山
第14回				第14回	代謝			小山
第15回				第15回	まとめ			小山

科目区分	専門基礎	授業科目	発声・発語・聴覚系の構造、機能		時間数	30	単位数	2		
授業形態	■講義演習 □実技含む □実験実習 □臨床実習				必・選	■必修 □選択必修				
学期区分	■前期 □後期 □通年		水	曜日	4	限	学 年	1年	講義室等	201
科目責任者	望月崇司			科目担当者	望月崇司					
実務家教員としての経歴 (実務経験)	回復期リハビリテーション：5年、急性期リハビリテーション：2年 教員業務：9年（急性期・回復期病院での非常勤職員：9年、老人保健施設での非常勤職員：4年） 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士、臨床神経心理士									
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法（割合）				
発声発語系、聴覚系の構造について理解できる。 発声発語系、聴覚系の機能について理解できる。						試験				

科目区分	専門基礎	授業科目	神経系の構造、機能、病態			時間数	60	単位数	4
授業形態	■講義演習 □実技含む □実験実習 □臨床実習					必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	□前期 □後期 ■通年		火 曜 日 3、1 限			学 年	1年	講義室等	201
科目責任者	望月崇司			科目担当者		望月崇司			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	回復期リハビリテーション：5年、急性期リハビリテーション：2年								
	教員業務：9年（急性期・回復期病院での非常勤職員：9年、老人保健施設での非常勤職員：4年）								
	日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士、臨床神経心理士								
授業のねらい、到達目標							成績評価の方法 （割合）		
脳神経系の構造について理解できる。 脳神経系の機能について理解することができる。 脳神経系における機能障害や症候の出現メカニズムを説明することができる。							試験	40%	
							実技試験		
							実習評価		
授業の概要							小テスト	60%	
教科書ベースのスライドを配布しますので、スライドに書き込みながら授業を行います。 授業の終了後とに確認プリントを配布します。各自取り組んでください。 各セッションごとに小テストを実施します。小テストは確認プリントから作成します。小テストの合計と前期後期の最終授業で行う試験を合算して成績をつけます。							レポート		
							その他		
							計	100%	
教科書	解剖生理がわかる脳と神経をめぐる旅、なるほどなっとく！脳神経内科学					履修条件、履修上の注意事項			
参考書									
授 業 の 計 画									
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当		
第1回	第1章 神経の仕組みと神経伝達		望月	第16回	第8章 大脳基底核と小脳		望月		
第2回	〃		望月	第17回	〃		望月		
第3回	小テスト① 第2章 末梢神経		望月	第18回	小テスト⑥ 第10章 高次機能		望月		
第4回	〃		望月	第19回	〃		望月		
第5回	小テスト② 第3章 脳と脊髄の基本的な仕組み		望月	第20回	小テスト⑦ 意識と情動に関わる神経系		望月		
第6回	〃		望月	第21回	〃		望月		
第7回	〃		望月	第22回	小テスト⑧ 脳血管障害と脳腫瘍		望月		
第8回	小テスト③ 第4章 運動路		望月	第23回	〃		望月		
第9回	〃		望月	第24回	小テスト⑨ 認知症		望月		
第10回	小テスト④ 第5章 感覚路		望月	第25回	〃		望月		
第11回	〃		望月	第26回	小テスト⑩ 変性疾患と脱髄疾患		望月		
第12回	小テスト⑤ 第6章 脳神経		望月	第27回	〃		望月		
第13回	〃		望月	第28回	小テスト⑪ その他の脳疾患		望月		
第14回	第7章 脊髄		望月	第29回	〃		望月		
第15回	総合テスト		望月	第30回	総合テスト		望月		

科目区分	専門基礎	授業科目	言語学		時間数	30	単位数	2
授業形態	■講義演習 □実技含む □実験実習 □臨床実習				必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	■前期 □後期 □通年		木 曜日 1 限		学 年	1年	講義室等	201
科目責任者	西條 一彦			科目担当者	西條 一彦			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	30年を超えるリハビリ病院勤務中に、市の「ことばの教室」相談員も兼務することで、幼児から成人まで様々な症例を経験することができたので、その経験を授業に活かすことができる。							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法 (割合)		
言語学の専門用語が正しく理解でき、日本語についての客観的な分析とその構造が把握できることを目標とする。						定期試験	85%	
						実技試験		
						実習評価		
授業の概要						小テスト		
テキストに沿って、講義を中心に進めます。						レポート		
						その他	15%	
						計	100%	
教科書	言語聴覚士のための基礎知識「音声学・言語学」第2版 医学書院					履修条件、履修上の注意事項		
参考書	酒井邦嘉著 チョムスキーと言語脳科学 外							
授 業 の 計 画								
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当	
第1回	イントロダクション 言語聴覚士の仕事		西條	第16回				
第2回	言語の基礎①ことばとは何か		々	第17回				
第3回	言語学の基礎 ②記号体系としての言語		々	第18回				
第4回	言語学の基礎 ③言語の生産性を支える性質		々	第19回				
第5回	言語の基礎：国試問題		々	第20回				
第6回	語彙・文法・意味①		々	第21回				
第7回	語彙・文法・意味②		々	第22回				
第8回	語彙・文法・意味③		々	第23回				
第9回	語彙・文法・意味：国試問題		々	第24回				
第10回	言語学と周辺分野		々	第25回				
第11回	言語学的に見た日本語		々	第26回				
第12回	言語理論と言語聴覚療法		々	第27回				
第13回	言語学と周辺分野、言語学的に見た日本語、言語理論と言語聴覚療法：国試問題		々	第28回				
第14回	言語と脳		々	第29回				
第15回	模擬試験		々	第30回				

科目区分	社会福祉教育	授業科目	社会福祉と教育		時間数	30	単位数	2
授業形態	■講義演習 □実技含む □実験実習 □臨床実習				必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	□前期 ■後期 □通年		木 曜日 1 限		学 年	1年	講義室等	201
科目責任者	西條 一彦			科目担当者	西條 一彦			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	リハビリ病院で言語聴覚療法の業務を10年ほど行った後、病院医事業務を統括する立場から、診療報酬や介護報酬への対応に関わることになり社会保障分野との関わりを持ってきた。更に病院管理者として労働保険分野、自立支援医療等の知識も吸収することができた。							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法 （割合）		
「人間らしい社会」の有り様を追い、医療従事者として社会保障制度の一端を担う言語聴覚士の資質を養う。 1. 日本国憲法で保障された「人間らしい社会」の有り様がどのように制度化されているかを学ぶ 2. 年々改正される社会保障政策の基本的考え方を理解し、過去問を通して知識を定着させる。						定期試験	85%	
						実技試験		
						実習評価		
授業の概要						小テスト		
教科書に沿って、講義を進め、過去問にチャレンジします。						レポート		
						その他	15%	
						計	100%	
教科書	「はじめての社会保障」第22版 棕野美智子・田中耕太郎著 有斐閣アルマ					履修条件、履修上の注意事項		
参考書	都度紹介します。							
授 業 の 計 画								
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当	
第1回				第1回	イントロダクション 社会福祉の見取り図		西條	
第2回				第2回	言語聴覚士法②過去問		々	
第3回				第3回	医療保険①		々	
第4回				第4回	医療保険②		々	
第5回				第5回	生活保護と社会福祉制度①		々	
第6回				第6回	生活保護と社会福祉制度②		々	
第7回				第7回	介護保険①		々	
第8回				第8回	介護保険② 障害者総合支援法 障害等級		々	
第9回				第9回	福祉援助技術		々	
第10回				第10回	年金保険		々	
第11回				第11回	雇用保険と労働者災害補償保険		々	
第12回				第12回	社会保険と民間保険 社会保障の歴史と構造①		々	
第13回				第13回	社会保障の歴史と構造②		々	
第14回				第14回	教育とリハビリテーション		々	
第15回				第15回	模擬試験		々	

科目区分	専門	授業科目	言語聴覚障害学総論		時間数	60	単位数	2
授業形態	□講義演習 ■実技含む □実験実習 □臨床実習				必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	□前期 □後期 ■通年		金・水 曜日 1・1 限		学 年	1 年	講義室等	202
科目責任者	村元 美穂			科目担当者	村元 美穂			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	急性期病院勤務15年（急性期9年・訪問6年）							
	介護・訪問施設勤務 8 年（通所リハビリ・訪問看護）							
	介護老人保健施設勤務1年							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法 （割合）		
1. 言語聴覚士の役割や、職務等の理解ができる						定期試験	50%	
2. チームアプローチの必要性や多職種との関わり方を理解する						実技試験		
3. 言語聴覚士が関わる障害の全体像を理解し、スムーズに各論に進めるようにする						実習評価		
授業の概要						小テスト	40%	
授業内容に沿った資料とスライドにて授業を進めていきます						レポート		
特に後半では調べる・まとめる・発表するということもあります						その他	10%	
内容が幅広いため、予習復習をしてください						計	100%	
途中で確認の小テストを行なっていきます								
授業の進み具合によっては授業内容が前後することもあります								
教科書	言語聴覚士テキスト 第4版					履修条件、履修上の注意事項		
参考書	各種関連書籍							
授 業 の 計 画								
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当	
第1回	イントロダクション		村元	第16回	言語聴覚障害① 失語症		村元	
第2回	言語聴覚障害・言語聴覚士とは		村元	第17回	発表		村元	
第3回	言語聴覚療法の基本理念		村元	第18回	言語聴覚障害② 言語発達障害・吃音		村元	
第4回	確認小テスト①		村元	第19回	発表		村元	
第5回	言語聴覚療法の過程		村元	第20回	言語聴覚障害③ 発話の障害 ディサースリア・機能構・器質構)		村元	
第6回	関連職種連携		村元	第21回	発表		村元	
第7回	確認小テスト②		村元	第22回	言語聴覚障害④ 音声障害		村元	
第8回	言語聴覚士の職務・リスクマネジメント		村元	第23回	発表		村元	
第9回	言語聴覚士の法的基盤		村元	第24回	言語聴覚障害⑤ 高次脳機能障害		村元	
第10回	確認小テスト③		村元	第25回	発表		村元	
第11回	言語聴覚分野がたどってきた道		村元	第26回	言語聴覚障害⑥ 摂食嚥下障害		村元	
第12回	言語聴覚分野の歴史トピックス		村元	第27回	発表		村元	
第13回	確認小テスト④		村元	第28回	確認小テスト⑤		村元	
第14回	まとめ・復習		村元	第29回	まとめ・復習		村元	
第15回	まとめ・復習		村元	第30回	まとめ・復習		村元	

科目区分	専門基礎	授業科目	成人聴覚障害実技			時間数	30	単位数	1
授業形態	□講義演習 ■実技含む □実験実習 □臨床実習			必・選		■必修 □選択必修			
学期区分	□前期 ■後期 □通年		金 曜日 1 限			学 年	1 年	講義室等	202
科目責任者	竹内洋彦			科目担当者	竹内洋彦				
実務家教員としての経歴 (実務経験)	昭和59年から令和4年まで言語聴覚療法に従事。平成11年、言語聴覚士資格取得。 平成13年から臨床実習指導に当たる。 令和4年度から教員業務。								
授業のねらい、到達目標							成績評価の方法 (割合)		
成人の聴覚障害について、病態と障害を学び、聴覚の諸側面を測定するための検査 手技を実際に行えるようにしていく。							定期試験 実技試験 50% 実習評価		
授業の概要							小テスト 50%		
講義だけでなく、実際にオージオメータを操作して、検査法を学んでいきます。理解度の確認のために、適宜小テストや課題も実施していきます。							レポート その他 計 100%		
教科書	最新言語聴覚学講座 聴覚障害学(医歯薬出版)						履修条件、履修上の注意事項		
参考書									
授 業 の 計 画									
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉				担当	
第1回				第1回	聴覚系の機能と構造			竹内	
第2回				第2回	難聴の種類と原因			竹内	
第3回				第3回	難聴の種類と原因			竹内	
第4回				第4回	聴覚と平衡機能の検査			竹内	
第5回				第5回	純音聴力検査			竹内	
第6回				第6回	純音聴力検査			竹内	
第7回				第7回	純音聴力検査			竹内	
第8回				第8回	語音聴力検査			竹内	
第9回				第9回	語音聴力検査			竹内	
第10回				第10回	内耳機能検査			竹内	
第11回				第11回	インピーダンス・オージオメトリ			竹内	
第12回				第12回	インピーダンス・オージオメトリ			竹内	
第13回				第13回	その他の聴力検査			竹内	
第14回				第14回	成人聴覚障害のリハビリテーション			竹内	
第15回				第15回	成人聴覚障害のリハビリテーション			竹内	

科目区分	基礎	授業科目	ライティング			時間数	15	単位数	1	
授業形態	■講義演習 □実技含む □実験実習 □臨床実習					必・選	■必修 □選択必修			
学期区分	■前期 □後期 □通年		金	曜日	1	限	学 年	2 年	講義室等	201
科目責任者	西條一彦				科目担当者	西條一彦				
実務家教員としての経歴 (実務経験)	約40年にわたる医療機関での勤務を通して、様々な文書を作成してきたが、とてもにわかりやすいという評価を受けることが多く、またリライトを頼まれることも多かった。この体験から得た知識・技術を伝えていければと思っている。									
授業のねらい、到達目標							成績評価の方法 （割合）			
言語聴覚士は言語障害の専門家であることから、文章の読解とその作成には他職種以上のスキルが求められる。本講義で読解の 楽しさを実感し、実用的な文書作成技術を身につけて欲しい。							定期試験			
							実技試験			
授業の概要							実習評価			
実用文を書くテクニックを紹介し、実際に書かれた文章をリライトすることでそのテクニックを体得する。							小テスト			
							レポート		85%	
							その他		15%	
							計		100%	
教科書	指定はありません。						履修条件、履修上の注意事項			
参考書	阿部紘久著 文章力の基本100題 光文社、高橋廣敏著 伝わる文章の基本 総合法令出版、向後千春著 伝わる文章を書く技術 永岡書店									
授 業 の 計 画										
〈 前 期 〉				担当	〈 後 期 〉				担当	
第1回	ライティングのテクニック			西條	第1回					
第2回	悪文とは何か			々	第2回					
第3回	課題1			々	第3回					
第4回	主語と述語			々	第4回					
第5回	修飾語			々	第5回					
第6回	「は」と「が」の使い分け			々	第6回					
第7回	合流点はどこか			々	第7回					
第8回	接続の論理			々	第8回					
第9回					第9回					
第10回					第10回					
第11回					第11回					
第12回					第12回					
第13回					第13回					
第14回					第14回					
第15回					第15回					

科目区分	基礎	授業科目	課題研究（基礎）Ⅱ		時間数	60	単位数	2
授業形態	■講義演習 □実技含む □実験実習 □臨床実習				必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	□前期 □後期 ■通年		金・月 曜日 3・2 限		学 年	2 年	講義室等	201
科目責任者	村元 美穂			科目担当者	村元 美穂			
実務家教員 としての 経歴 (実務経験)	急性期病院勤務15年（急性期9年・訪問6年）							
	介護・訪問施設勤務8年（通所リハビリ・訪問看護）							
	介護老人保健施設勤務1年							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法 （割合）		
1. 実習準備をしながら実習前に基本的な注意点を確認する						定期試験		
2. case studyをすることで言語聴覚障害等の理解を深める						実技試験		
3. 症例検討会に向けて準備をし、発表・質疑応答の練習まで行なう						実習評価		
授業の概要						小テスト		
福祉実習に向けての準備をしていきます						レポート 60%		
演習形式で理解を深めながら進めていきます						その他 40%		
症例を通して、言語聴覚士の職を再確認していきます						計 100%		
授業の進み具合によっては内容に変更が生じる可能性があります								
教科書	特になし					履修条件、履修上の注意事項		
参考書	各種参考書							
授 業 の 計 画								
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当	
第1回	オリエンテーション		村元	第16回	case study①		村元	
第2回	福祉実習に向けて① 要項の読み合わせ		村元	第17回	case study②		村元	
第3回	福祉実習に向けて②		村元	第18回	case study③		村元	
第4回	福祉実習に向けて③ 個人票の作成		村元	第19回	case study④		村元	
第5回	福祉実習に向けて④ 個人票の作成		村元	第20回	case study⑤		村元	
第6回	福祉実習に向けて⑤		村元	第21回	症例 感想レポート②まとめ		村元	
第7回	福祉実習に向けて⑥ 先輩からの情報収集・共有		村元	第22回	感想レポート提出		村元	
第8回	福祉実習に向けて⑦ 先輩からの情報収集・共有		村元	第23回	症例検討会に向けて①準備		村元	
第9回	福祉実習に向けて⑧ 情報共有・まとめ		村元	第24回	症例発表会に向けて②準備		村元	
第10回	福祉実習のまとめ①		村元	第25回	症例検討会に向けて③準備		村元	
第11回	福祉実習のまとめ②		村元	第26回	症例検討会に向けて④準備		村元	
第12回	福祉実習のまとめ③ 発表		村元	第27回	症例検討会に向けて⑤準備		村元	
第13回	福祉実習のまとめ④ 発表		村元	第28回	症例検討会に向けて⑥準備		村元	
第14回	感想レポート①まとめ		村元	第29回	症例検討会に向けて⑦練習		村元	
第15回	感想レポート①提出		村元	第30回	症例発表会に向けて⑧練習		村元	

科目区分	専門	授業科目	臨床医療学Ⅰ（内科、臨床神経学）		時間数	60	単位数	4
授業形態	■講義演習 □実技含む □実験実習 □臨床実習				必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	□前期 □後期 ■通年		金 曜 日 4 限		学 年	2年	講義室等	201
科目責任者	泉従道			科目担当者	泉従道			
実務家教員としての経歴 （実務経験）	1980年、信州大学医学部医学科卒業。医師免許取得。リハビリテーション科専門医認定。1982年度から2023年度まで信州大学医学部附属病院・鹿教湯病院・三才山病院・室賀診療所等での内科・神経内科・リハビリテーション科医師として勤務。2004年度から2012年度まで、2020年度から現在まで当専門学校非常勤教員。							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法（割合）		
言語聴覚臨床に必要な内科学と臨床神経学の知識を習得する						定期試験	100%	
						実技試験		
						実習評価		
授業の概要						小テスト		
内科疾患・神経疾患について広く学習する						レポート		
						その他		
						計	100%	
教科書	（前期）なるほどなっとく！内科学、（後期）病気がみえる vol.7 脳・神経					履修条件、履修上の注意事項		
参考書								
授 業 の 計 画								
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当	
第1回	環境変化と人類の病気		泉	第1回	神経系の構造・機能・病態・症候		泉	
第2回	診断と治療、主な症候		泉	第2回	脳血管障害①		泉	
第3回	呼吸器疾患		泉	第3回	脳血管障害②		泉	
第4回	循環器疾患		泉	第4回	脳血管障害③		泉	
第5回	消化管疾患		泉	第5回	認知症		泉	
第6回	肝・胆・膵疾患		泉	第6回	神経変性疾患①		泉	
第8回	代謝性疾患①		泉	第8回	神経変性疾患②		泉	
第8回	代謝性疾患②		泉	第8回	神経変性疾患③		泉	
第9回	内分泌疾患		泉	第9回	筋疾患・代謝性神経障害		泉	
第10回	腎・泌尿器疾患		泉	第10回	脳神経障害・末梢神経障害		泉	
第11回	血液疾患		泉	第11回	脊髄障害・脱髄性疾患		泉	
第12回	膠原病・アレルギー疾患		泉	第12回	感染性疾患・腫瘍・外傷		泉	
第13回	感染症		泉	第13回	頭痛・てんかん		泉	
第14回	主な検査		泉	第14回	症候と検査		泉	
第15回	総復習		泉	第15回	総復習		泉	

科目区分	専門基礎	授業科目	心理測定法			時間数	15	単位数	1	
授業形態	☒ 講義演習 ☐ 実技含む ☐ 実験実習 ☐ 臨床実習					必・選	☒ 必修 ☐ 選択必修			
学期区分	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年		月	曜日	1	限	学 年	4 年	講義室等	401
科目責任者	竹内洋彦			科目担当者	竹内洋彦					
実務家教員としての経歴 (実務経験)	昭和59年から令和4年まで言語聴覚療法に従事。平成11年、言語聴覚士資格取得。 平成13年から臨床実習指導に当たる。 令和4年度から教員業務。									
授業のねらい、到達目標							成績評価の方法 (割合)			
心理学は、言語聴覚療法のバックグラウンドを支える重要な基礎的領域である。その心理学で用いられる様々な測定法を通して、心理学という専門分野の研究法について学び、言語聴覚療法の臨床にも活かせるようにする。							定期試験			
							実技試験			
授業の概要							実習評価			
							小テスト 90%			
心理学各領域でどのような測定法により「心を測る」のかについて、具体的にみていく。その過程を通して、行動科学としての言語聴覚療法の臨床にどのように活かすかについて考えていく。							レポート			
							その他 10%			
							計 100%			
教科書	言語聴覚士のための心理学(医歯薬出版)、心理学(東京大学出版会)						履修条件、履修上の注意事項			
参考書	心理測定法への招待(サイエンス社)									
授 業 の 計 画										
〈 前 期 〉				担当	〈 後 期 〉				担当	
第1回					第1回	心理測定とは			竹内	
第2回					第2回	見え方を測る			竹内	
第3回					第3回	記憶を測る			竹内	
第4回					第4回	集団と個人差			竹内	
第5回					第5回	臨床心理学・投影法			竹内	
第6回					第6回	攻撃性の測定			竹内	
第7回					第7回	反応時間を使う			竹内	
第8回					第8回	測定値の性質			竹内	
第9回					第9回	知覚研究での測定			竹内	
第10回					第10回	認知研究での測定			竹内	
第11回					第11回	社会心理学における測定			竹内	
第12回					第12回	発達・教育研究における測定			竹内	
第13回					第13回	言語聴覚療法における測定 1			竹内	
第14回					第14回	言語聴覚療法における測定 2			竹内	
第15回					第15回	まとめ			竹内	

科目区分	専門	授業科目	言語聴覚障害 実技指導Ⅰ			時間数	60	単位数	2
授業形態	■講義演習 ■実技含む □実験実習 □臨床実習					必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	□前期 □後期 ■通年		火・水 曜日 1・2 限			学 年	2年	講義室等	201
科目責任者	村元美穂			科目担当者	林 耕 司 ・ 村元美穂				
実務家教員としての経歴 (実務経験)	村元：急性期病院勤務15年（急性期9年・訪問6年）								
	介護・訪問施設勤務 8 年（通所リハビリ・訪問看護）								
	介護老人保健施設勤務1年								
授業のねらい、到達目標							成績評価の方法 （割合）		
小児領域①観察のポイントをつかむ ②観察記録がつけられる ③様々なタイプの障害像を把握し、支援の方法を知る。 成人領域：①ICFを用いての評価が理解できる ②学術誌に触れる機会を持ち言語聴覚障害の理解を深める							定期試験		
							実技試験		
							実習評価		
授業の概要							小テスト		
①小児の領域：手遊び歌・絵描き歌・手話・指文字を覚え、絵本を読む。自閉症スペクトラム症の東田直樹君の本から実際の症状を学び、何が問題なのかを知り、どう支援していけばいいか考えていく。 ②成人の領域：言語聴覚障害の特徴を理解し、まとめ、評価・支援方法を考える 授業の進み具合によっては授業内容に変更が生じる可能性があります							レポート		40%
							その他		60%
							計		100%
教科書	自閉症の僕が跳びはねる理由						履修条件、履修上の注意事項		
参考書	各種関連書籍								
授 業 の 計 画									
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当		
第1回	オリエンテーション		林	第16回	オリエンテーション		村元		
第2回	子どもの行動観察①		林	第17回	ICF 演習		村元		
第3回	発達障害とは①		林	第18回	全体の評価①		村元		
第4回	発達障害とは②		林	第19回	全体の評価②		村元		
第5回	発達障害とは③		林	第20回	各疾患確認① 学術誌を読む		村元		
第6回	子どもの発達段階①		林	第21回	まとめ		村元		
第7回	子どもの発達段階②		林	第22回	各疾患確認② 学術誌を読む		村元		
第8回	子どもの行動観察②		林	第23回	まとめ		村元		
第9回	子どもの行動観察③		林	第24回	各種疾患確認③ 学術誌を読む		村元		
第10回	支援の場での評価とは①		林	第25回	まとめ		村元		
第11回	支援の場での評価とは②		林	第26回	各種疾患確認④ 学術誌を読む		村元		
第12回	観察記録の書き方①		林	第27回	まとめ		村元		
第13回	観察記録の書き方②		林	第28回	各種疾患確認⑤ 学術誌を読む		村元		
第14回	まとめ①		林	第29回	まとめ		村元		
第15回	まとめ②		林	第30回	症例 感想レポート①まとめ・提出		村元		

科目区分	専門	授業科目	言語聴覚障害 実技指導Ⅱ			時間数	60	単位数	2
授業形態	□講義演習 ■実技含む □実験実習 □臨床実習					必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	□前期 □後期 ■通年		木・金 曜日 3 限			学 年	3 年	講義室等	402
科目責任者	竹内洋彦				科目担当者	竹内洋彦、泉従道			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	昭和59年から令和4年まで言語聴覚療法に従事。平成11年、言語聴覚士資格取得。								
	平成13年から臨床実習指導に当たる。								
	令和4年度から教員業務。								
授業のねらい、到達目標							成績評価の方法 （割合）		
リハビリテーションに必要な画像評価の知識を習得する							定期試験		
言語聴覚障害実技に必要なリハビリテーションの知識を習得する							実技試験		50%
							実習評価		30%
授業の概要							小テスト		
リハビリテーションに必要な画像評価について広く学習する							レポート		
言語聴覚障害実技に必要なリハビリテーションについて広く学習する							その他		20%
							計		100%
教科書							履修条件、履修上の注意事項		
参考書									
授 業 の 計 画									
〈 前 期 〉				担当	〈 後 期 〉				担当
第1回	臨床業務の枠組み			竹内	第16回	脳画像の基本・画像解剖			泉
第2回	リハビリテーションの進め方			竹内	第17回	運動野・感覚野の見極め方			泉
第3回	スクリーニングテスト			竹内	第18回	言語野の見極め方			泉
第4回	スクリーニングテスト			竹内	第19回	脳の機能局在			泉
第5回	スクリーニングテスト			竹内	第20回	脳血管障害①			泉
第6回	総合テスト			竹内	第21回	脳血管障害②			泉
第7回	総合テスト			竹内	第22回	脳血管障害③			泉
第8回	総合テスト			竹内	第23回	頭部外傷・脳腫瘍			泉
第9回	総合テスト			竹内	第24回	認知症・神経難病・その他の疾患			泉
第10回	症例の観察			竹内	第25回	脳画像の総復習			泉
第11回	症例の観察			竹内	第26回	ケーススタディ：ブローカ失語			泉
第12回	記録のつけ方			竹内	第27回	ケーススタディ：ウェルニッケ失語			泉
第13回	記録のつけ方			竹内	第28回	ケーススタディ：全失語			泉
第14回	記録のつけ方			竹内	第29回	ケーススタディ：注意障害			泉
第15回	まとめ			竹内	第30回	ケーススタディ フレンベルク症候群による嚥下障害			泉

科目区分	専門	授業科目	言語聴覚障害 実技指導Ⅱ		時間数	60	単位数	2
授業形態	□講義演習 ■実技含む □実験実習 □臨床実習				必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	□前期 □後期 ■通年	水・木 曜日		2、1 限	学 年	3 年	講義室等	402
科目責任者	望月崇司			科目担当者	小山宏和、望月崇司			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	望月：回復期リハビリテーション：5年、急性期リハビリテーション：2年 教員業務：9年（急性期・回復期病院での非常勤職員：9年、老人保健施設での非常勤職員：4年） 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士、臨床神経心理士							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法 （割合）		
リハビリテーションに必要な画像評価の知識を習得する						定期試験		
言語聴覚障害実技に必要なリハビリテーションの知識を習得する						実技試験		
						実習評価		
授業の概要						小テスト		
リハビリテーションに必要な画像評価について広く学習する						レポート	50%	
言語聴覚障害実技に必要なリハビリテーションについて広く学習する						その他	50%	
						計	100%	
教科書	脳画像・言語聴覚士のための臨床実習テキスト、機能解剖から学ぶ脳画像の読み方					履修条件、履修上の注意事項		
参考書								
授 業 の 計 画								
〈 後 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当	
第1回	実習について		小山	第1回	実習のintroduction		望月	
第2回	カルテについて		小山	第2回	〃		望月	
第3回	情報の取捨選択について		小山	第3回	観察項目とSOAPによる整理		望月	
第4回	スクリーニングについて		小山	第4回	〃		望月	
第5回	失語症会話評価		小山	第5回	スクリーニングによるアセスメント		望月	
第6回	〃		小山	第6回	〃		望月	
第7回	会話分析		小山	第7回	Case Study①		望月	
第8回	嚥下障害評価		小山	第8回	Case Study②		望月	
第9回	〃		小山	第9回	Case Study③		望月	
第10回	評価実習中		小山	第10回	評価実習につき課題対応		望月	
第11回	〃		小山	第11回	〃		望月	
第12回	〃		小山	第12回	〃		望月	
第13回	まとめ		小山	第13回	評価実習後のまとめ		望月	
第14回	〃		小山	第14回	〃		望月	
第15回	〃		小山	第15回	〃		望月	

科目区分	専門	授業科目	言語聴覚障害 実技指導Ⅲ		時間数	60	単位数	2
授業形態	□講義演習 □実技含む ■実験実習 □臨床実習				必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	■前期 □後期 □通年		火・水 曜日 1 限		学 年	4 年	講義室等	401、5 F
科目責任者	竹内洋彦			科目担当者	竹内 洋彦、望月 崇司			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	昭和59年から令和4年まで言語聴覚療法に従事。平成11年、言語聴覚士資格取得。 平成13年から臨床実習指導に当たる。 令和4年度から教員業務。							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法 (割合)		
①臨床に必要な評価の視点、診断の視点を身につける。 ②評価結果を分析し、問題点の抽出、訓練プログラムの立案ができる。 ③立案した訓練プログラムを実際に行い、結果をまとめることができる。						定期試験		
						実技試験		
						実習評価	50%	
授業の概要						小テスト		
・模擬患者を想定し、評価と訓練プログラムの立案を行う。 ・実際に立案した訓練をお互いに実施し、経過をまとめる。 ・担当教務は適宜指導・アドバイスをを行う。						レポート	50%	
						その他		
						計	100%	
教科書	特になし					履修条件、履修上の注意事項		
参考書	各種参考書							
授 業 の 計 画								
〈 前 期 ①〉			担当	〈 前 期 ②〉			担当	
第1回	言語聴覚療法臨床の流れ		竹内	第1回	評価と臨床 イン트로ダクション		望月	
第2回	インテークとスクリーニング		竹内	第2回	スクリーニング検査の分析と評価		望月	
第3回	スクリーニングから鑑別検査へ		竹内	第3回	ケーススタディ①ー嚥下障害ー		望月	
第4回	失語症・高次脳機能障害の評価とは 1		竹内	第4回	〃 分析編		望月	
第5回	失語症・高次脳機能障害の評価とは 2		竹内	第5回	〃 実技編		望月	
第6回	失語症の検査について 1		竹内	第6回	ケーススタディ②ー構音障害ー		望月	
第7回	失語症の検査について 2		竹内	第7回	〃 分析編		望月	
第8回	高次脳機能障害の検査について 1		竹内	第8回	〃 実技編		望月	
第9回	高次脳機能障害の検査について 2		竹内	第9回	ケーススタディ③ー失語症ー		望月	
第10回	検査結果を整理する		竹内	第10回	〃 分析編		望月	
第11回	検査結果から臨床仮説へ 1		竹内	第11回	〃 実技編		望月	
第12回	検査結果から臨床仮説へ 2		竹内	第12回	ケーススタディ④ー認知症ー		望月	
第13回	検査結果から臨床仮説へ 3		竹内	第13回	〃 分析編		望月	
第14回	臨床仮説から戦略そしてプログラムへ		竹内	第14回	〃 実技編		望月	
第15回	まとめ		竹内	第15回	総まとめ		望月	

科目区分	専門	授業科目	言語聴覚障害 実技指導Ⅲ			時間数	60	単位数	2
授業形態	□講義演習 □実技含む ■実験実習 □臨床実習					必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	■前期 □後期 □通年		月	曜日	1 限	学 年	4 年	講義室等	401
科目責任者	村元美穂			科目担当者	村元美穂				
実務家教員としての経歴 (実務経験)	急性期病院勤務15年（急性期9年・訪問6年） 介護・訪問施設勤務 8 年（通所リハビリ・訪問看護） 介護老人保健施設勤務1年								
授業のねらい、到達目標							成績評価の方法（割合）		
1. ディサースリアを再確認をする 2. ディサースリアの治療テクニックを習得する 3. 治療時の指示の出し方を通してクライアントとの接し方について再確認する							定期試験		
							実技試験	50%	
							実習評価		
授業の概要							小テスト		
臨床に出る再復習として、治療アプローチの確認と実技を行ないます テキストをベースに進めていきますので、予習復習をしてください 実技の進み具合によっては内容が前後することがあります							レポート		
							その他	50%	
							計	100%	
教科書	ディサースリア臨床標準テキスト 第2版					履修条件、履修上の注意事項			
参考書	各種関連書籍								
授 業 の 計 画									
〈 前 期 ③〉				担当	〈 前 期 ④〉				担当
第1回	イントロダクション			村元	第1回	イントロダクション			竹内
第2回	ディサースリア 実技①呼吸機能			村元	第2回	失語症例の分析			竹内
第3回	ディサースリア 実技①呼吸機能			村元	第3回	失語症例の分析			竹内
第4回	ディサースリア 実技②発声機能			村元	第4回	失語症例の分析			竹内
第5回	ディサースリア 実技②発声機能			村元	第5回	失語症例のプログラム立案			竹内
第6回	ディサースリア 実技③鼻咽腔閉鎖機能			村元	第6回	失語症例のプログラム立案			竹内
第7回	まとめ・復習			村元	第7回	失語症例のプログラム立案			竹内
第8回	ディサースリア 実技④口腔構音機能			村元	第8回	失語症例のプログラム立案			竹内
第9回	ディサースリア 実技④口腔構音機能			村元	第9回	高次脳機能例の分析			竹内
第10回	ディサースリア 実技⑤発話速度調整			村元	第10回	高次脳機能例の分析			竹内
第11回	ディサースリア 実技⑤発話速度調整			村元	第11回	高次脳機能例の分析			竹内
第12回	MPTSSE			村元	第12回	高次脳機能例のプログラム立案			竹内
第13回	ディサースリア 聴覚的評価等			村元	第13回	高次脳機能例のプログラム立案			竹内
第14回	まとめ・復習			村元	第14回	高次脳機能例のプログラム立案			竹内
第15回	まとめ・復習			村元	第15回	高次脳機能例のプログラム立案			竹内

科目区分	専門	授業科目	失語症学		時間数	30	単位数	2
授業形態	■講義演習 □実技含む □実験実習 □臨床実習				必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	■前期 □後期 □通年		木	曜日	1	限	学 年	2年 講義室等 201
科目責任者	小山宏和			科目担当者	小山宏和			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	回復期病院：3年、訪問看護：4年、教員業務：4年、共生型施設：4年							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法 (割合)		
失語症について理解を深める/失語症の言語症状について理解する 失語症の古典的タイプ分類を理解する/失語症の検査について理解し実施する						定期試験	60%	
						実技試験		
						実習評価		
授業の概要						小テスト	20%	
教科書をベースにスライド形式の授業を展開します。検査練習など個人の取り組みを推奨します						レポート		
						その他	20%	
						計	100%	
教科書	標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版					履修条件、履修上の注意事項		
参考書	失語症の評価と治療					毎時間冒頭に振り返りを行います		
授 業 の 計 画								
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当	
第1回	失語症学について		小山	第1回				
第2回	言語の神経基盤①		小山	第2回				
第3回	失語症の言語症状①		小山	第3回				
第4回	失語症の言語症状②		小山	第4回				
第5回	失語症の古典的分類①		小山	第5回				
第6回	失語症の古典的分類②		小山	第6回				
第7回	失語症の古典的分類③		小山	第7回				
第8回	その他のタイプ		小山	第8回				
第9回	小テスト		小山	第9回				
第10回	認知神経心理学的モデル①		小山	第10回				
第11回	認知神経心理学的モデル②		小山	第11回				
第12回	認知神経心理学的モデル③		小山	第12回				
第13回	失語症の評価①		小山	第13回				
第14回	失語症の評価②		小山	第14回				
第15回	まとめ		小山	第15回				

科目区分	専門	授業科目	失語症 臨床技術		時間数	45	単位数	1
授業形態	□講義演習 □実技含む ■実験実習 □臨床実習				必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	□前期 □後期 ■通年		月・金 曜日 2・3 限		学 年	3年	講義室等	402
科目責任者	竹内洋彦			科目担当者	竹内洋彦			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	昭和59年から令和4年まで言語聴覚療法に従事。平成11年、言語聴覚士資格取得。 平成13年から臨床実習指導に当たる。 令和4年度から教員業務。							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法 (割合)		
失語症の基礎知識を確実にし、評価・診断・治療の実際を身に付ける。						定期試験	70%	
						実技試験		
						実習評価		
授業の概要						小テスト	30%	
失語症の原因、言語症状、随伴する諸症状、アプローチ法などについて学び、臨床に使える知識とする。						レポート		
						その他		
						計	100%	
教科書	医学書院 失語症学 第3版					履修条件、履修上の注意事項		
参考書								
授 業 の 計 画								
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当	
第1回	失語症を研究するとは？		竹内	第1回	前期試験解答解説		竹内	
第2回	失語症研究の歴史		竹内	第2回	言語症状分析の基礎		竹内	
第3回	失語症の言語症状		竹内	第3回	認知神経心理学的図式		竹内	
第4回	失語症候群1		竹内	第4回	認知神経心理学的アプローチの応用		竹内	
第5回	失語症候群2		竹内	第5回	認知神経心理学的アプローチの応用		竹内	
第6回	失語症候群3		竹内	第6回	失語症への言語治療的アプローチ(1)		竹内	
第7回	失語症候群4		竹内	第7回	失語症への言語治療的アプローチ(2)		竹内	
第8回	SLTAの実施とまとめ方		竹内	第8回	失語症への言語治療的アプローチ(3)		竹内	
第9回	SLTAの分析に向けて		竹内	第9回	呼称への意味的アプローチ		竹内	
第10回	SLTAの分析		竹内	第10回	呼称への語彙的アプローチ		竹内	
第11回	SLTA結果から障害構造の仮説化へ		竹内	第11回	単一事例研究法		竹内	
第12回	SLTA-STの実施と分析		竹内	第12回	文献抄読について		竹内	
第13回	失語症治療の原則		竹内	第13回	文献抄読1		竹内	
第14回	失語症治療の理論と技法 (1)		竹内	第14回	文献抄読2		竹内	
第15回	失語症治療の理論と技法 (2)		竹内	第15回	文献抄読3		竹内	

科目区分	専門	授業科目	高次脳機能障害学			時間数	30	単位数	2
授業形態	■講義演習 □実技含む □実験実習 □臨床実習					必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	□前期 ■後期 □通年		水 曜日 1 限			学 年	2 年	講義室等	201
科目責任者	竹内洋彦				科目担当者	竹内洋彦			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	昭和59年から令和4年まで言語聴覚療法に従事。平成11年、言語聴覚士資格取得。								
	平成13年から臨床実習指導に当たる。								
	令和4年度から教員業務。								
授業のねらい、到達目標							成績評価の方法 (割合)		
高次脳機能障害について、その概要・原因・対処方法などの基礎を学ぶ。							定期試験	60%	
							実技試験		
							実習評価		
授業の概要							小テスト	40%	
高次機能障害についての基本的情報である、その原因、定義、症状のみかた・考え方について学ぶ。また、日常生活上での評価の観点を養う。							レポート		
							その他		
							計	100%	
教科書	医学書院 高次脳機能障害学 第3版						履修条件、履修上の注意事項		
参考書									
授 業 の 計 画									
〈 前 期 〉				担当	〈 後 期 〉				担当
第1回					第1回	総論1 高次脳機能障害とは			竹内
第2回					第2回	総論2 主要症状と背景症状			竹内
第3回					第3回	総論3 脳と高次脳			竹内
第4回					第4回	総論4 大脳について			竹内
第5回					第5回	総論5 大脳の機能的階層			竹内
第6回					第6回	総論6 高次脳機能と画像診断			竹内
第7回					第7回	総論7 画像診断での脳溝と脳回の同定			竹内
第8回					第8回	総論8 fMRIその他			竹内
第9回					第9回	総論9 高次脳機能障害の原因疾患			竹内
第10回					第10回	総論10 神経心理学的な考え方			竹内
第11回					第11回	総論11 二重乖離の原理			竹内
第12回					第12回	総論12 脳機能の側性化			竹内
第13回					第13回	総論13 全体論と局在論			竹内
第14回					第14回	総論14 高次脳リハと言語聴覚士			竹内
第15回					第15回	まとめ			竹内

科目区分	専門	授業科目	高次脳機能障害 臨床技術			時間数	45	単位数	1
授業形態	□講義演習 □実技含む ■実験実習 □臨床実習					必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	□前期 □後期 ■通年		水・火 曜日 2・1 限			学 年	3 年	講義室等	402
科目責任者	竹内洋彦				科目担当者	竹内洋彦			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	昭和59年から令和4年まで言語聴覚療法に従事。平成11年、言語聴覚士資格取得。								
	平成13年から臨床実習指導に当たる。								
	令和4年度から教員業務。								
授業のねらい、到達目標							成績評価の方法 (割合)		
高次脳機能障害について、その概要・原因・対処方法などを学ぶ							定期試験	70%	
							実技試験		
							実習評価		
授業の概要							小テスト	30%	
高次脳機能障害への実際のリハビリアプローチ、症状の変化や処遇の流れその他について知り、STがどう関わるべきなのかについて考え学ぶ。							レポート		
							その他		
							計	100%	
教科書	医学書院 高次脳機能障害学 第3版						履修条件、履修上の注意事項		
参考書									
授 業 の 計 画									
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当		
第1回	高次脳機能障害Ⅰの復習		竹内	第1回	行為・動作の障害		竹内		
第2回	高次脳機能障害Ⅰの復習		竹内	第2回	行為・動作の障害		竹内		
第3回	視覚認知の障害		竹内	第3回	記憶障害		竹内		
第4回	視覚認知の障害		竹内	第4回	記憶障害		竹内		
第5回	視空間障害		竹内	第5回	記憶障害のリハビリ		竹内		
第6回	視空間障害		竹内	第6回	前頭葉と高次脳機能障害		竹内		
第7回	視空間障害		竹内	第7回	前頭葉と高次脳機能障害		竹内		
第8回	聴覚認知の障害		竹内	第8回	注意とワーキングメモリー		竹内		
第9回	聴覚認知の障害		竹内	第9回	脳梁離断症状		竹内		
第10回	触感認知の障害		竹内	第10回	脳梁離断症状		竹内		
第11回	触感認知の障害		竹内	第11回	認知症		竹内		
第12回	身体意識・病態認知の障害		竹内	第12回	脳外傷による高次脳機能障害		竹内		
第13回	身体意識・病態認知の障害		竹内	第13回	注意障害のリハビリ		竹内		
第14回	行為・動作の障害		竹内	第14回	高次脳機能障害のリハビリの実際		竹内		
第15回	前期まとめ		竹内	第15回	まとめ		竹内		

科目区分	専門	授業科目	言語発達障害 臨床技術		時間数	45	単位数	1
授業形態	☐ 講義演習 ☐ 実技含む ☒ 実験実習 ☐ 臨床実習				必・選	☒ 必修 ☐ 選択必修		
学期区分	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年		月	曜日	1	限	学 年	3 年 講義室等 402
科目責任者	林 耕司			科目担当者	林 耕司			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	リハビリテーション病院 3年 ・ 長野赤十字病院 34年 教員業務11年 現在は保健センター・療育施設で小児言語発達障害の相談・訓練							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法 (割合)		
①言語発達障害の基礎知識を十分なものとし、主として国リハ式<S－S法> 言語発達遅滞検査に習熟し、包括的な評価・訓練の知識を身につける。 ②各種検査や支援方法を学ぶ。						定期試験	100%	
						実技試験		
授業の概要						実習評価		
国リハ式<S－S法> 言語発達遅滞検査に習熟しながら、検査記録のつけ方、 評価の仕方を学ぶ。合わせて訓練内容・訓練方法も考えていく。						小テスト		
						レポート		
						その他		
						計	100%	
教科書	言語発達障害学 第3版					履修条件、履修上の注意事項		
参考書	言語聴覚士のための言語発達遅滞訓練ガイダンス							
授 業 の 計 画								
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当	
第1回	小児の言語発達障害の臨床とは		林	第1回	症例分析①		林	
第2回	<S－S法>の3側面アプローチ①		林	第2回	症例分析②		林	
第3回	<S－S法>の3側面アプローチ②		林	第3回	症例分析③		林	
第4回	前言語期一段階 1 ・ 2		林	第4回	症例分析④		林	
第5回	単語獲得期一段階 3		林	第5回	症例分析⑤		林	
第6回	前期構文獲得期一段階 4		林	第6回	症例分析⑥		林	
第7回	中期構文獲得期一段階 5		林	第7回	症例分析⑦		林	
第8回	症状分類と働きかけ		林	第8回	AAC①		林	
第9回	評価①		林	第9回	AAC②		林	
第10回	評価②		林	第10回	評価記録をつける①		林	
第11回	検査記録の実際①		林	第11回	評価記録をつける②		林	
第12回	検査記録の実際②		林	第12回	評価記録をつける③		林	
第13回	検査記録の実際③		林	第13回	評価記録をつける④		林	
第14回	まとめ①		林	第14回	まとめ①		林	
第15回	まとめ②		林	第15回	まとめ②		林	

科目区分	専門	授業科目	機能性・器質性構音障害		時間数	30	単位数	1
授業形態	☐ 講義演習 ☒ 実技含む ☐ 実験実習 ☐ 臨床実習				必・選	☒ 必修 ☐ 選択必修		
学期区分	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年		金	曜日	3	限	学 年	2年 講義室等 201
科目責任者	村元 美穂			科目担当者	村元 美穂			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	急性期病院勤務15年（急性期9年・訪問6年）							
	介護・訪問施設勤務 8 年（通所リハビリ・訪問看護）							
	介護老人保健施設勤務1年							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法（割合）		
1. 小児の音韻、構音の発達と機能性構音障害について学ぶ						定期試験	50%	
2. 構音障害の検査・評価・訓練の方法、流れを理解し、自分で考えられるようになる						実技試験		
						実習評価		
授業の概要						小テスト	50%	
教科書をベースとした資料とスライドで進めていきます						レポート		
途中、小テストを行なっていきますので予習復習をしてください						その他		
授業の進み具合によっては授業内容変更の可能性もあります						計	100%	
教科書	特別支援教育における構音障害のある子どもの理解と支援					履修条件、履修上の注意事項		
参考書	各種関連参考書							
授 業 の 計 画								
〈 器質性構音障害 〉				担当	〈 機能性構音障害 〉			担当
第1回	器質性構音障害とは			村元	第1回	機能性構音障害とは		村元
第2回	口蓋裂・先天性鼻咽腔閉鎖不全症			村元	第2回	機能性構音障害児の評価		村元
第3回	口蓋裂・先天性鼻咽腔閉鎖不全症の言語評価			村元	第3回	確認小テスト		村元
第4回	確認小テスト			村元	第4回	機能性構音障害性の指導		村元
第5回	口蓋裂言語の治療・指導			村元	第5回	複数音の誤り、異常構音の指導		村元
第6回	確認小テスト			村元	第6回	まとめ・復習		村元
第7回	舌小帯短縮症の評価と指導 咬合の異常を伴う子供の指導			村元	第7回	まとめ・復習		村元
第8回	まとめ・復習			村元	第8回			
第9回					第9回			
第10回					第10回			
第11回					第11回			
第12回					第12回			
第13回					第13回			
第14回					第14回			
第15回					第15回			

科目区分	専門	授業科目	嚥下障害学		時間数	30	単位数	2
授業形態	□講義演習 ■実技含む □実験実習 □臨床実習				必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	□前期 ■後期 □通年	火 曜 日 1 限			学 年	2年	講義室等	201
科目責任者	小山宏和			科目担当者	小山宏和			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	回復期病院：3年、訪問看護：4年、教員業務：4年、共生型施設：4年							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法 (割合)		
健常者の嚥下パターンを理解する/摂食嚥下モデルを理解する						定期試験	60%	
摂食嚥下に関与する器官や筋の名称を理解する/嚥下獲得や加齢変化について理解する						実技試験		
摂食嚥下障害を評価する方法を理解し取得する						実習評価		
授業の概要						小テスト	20%	
教科書をベースにスライド形式の授業を展開していきます 時折映像教材を使用します						レポート	10%	
						その他	10%	
						計	100%	
教科書	摂食嚥下リハビリテーション 第3版					履修条件、履修上の注意事項		
参考書	言語聴覚士ドリルプラス 摂食嚥下障害					毎時間冒頭に振り返りを行います		
授 業 の 計 画								
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当	
第1回				第1回	摂食嚥下障害の概要		小山	
第2回				第2回	摂食嚥下の解剖①		小山	
第3回				第3回	摂食嚥下の解剖②		小山	
第4回				第4回	摂食嚥下の解剖③		小山	
第5回				第5回	小テスト・振り返り		小山	
第6回				第6回	摂食嚥下の生理		小山	
第7回				第7回	摂食嚥下モデル		小山	
第8回				第8回	摂食嚥下モデル		小山	
第9回				第9回	摂食嚥下モデル		小山	
第10回				第10回	摂食嚥下機能の獲得		小山	
第11回				第11回	摂食嚥下機能の加齢変化		小山	
第12回				第12回	小テスト・振り返り		小山	
第13回				第13回	摂食嚥下機能の評価法		小山	
第14回				第14回	摂食嚥下機能の評価法		小山	
第15回				第15回	まとめ		小山	

科目区分	専門	授業科目	嚥下障害 臨床技術		時間数	45	単位数	1
授業形態	□講義演習 □実技含む ■実験実習 □臨床実習				必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	□前期 □後期 ■通年		火、水 曜日 1 限		学 年	3年	講義室等	5F
科目責任者	望月崇司			科目担当者	望月崇司			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	回復期リハビリテーション：5年、急性期リハビリテーション：2年 教員業務：9年（急性期・回復期病院での非常勤職員：9年、老人保健施設での非常勤職員：4年） 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士、臨床神経心理士							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法（割合）		
①嚥下障害の基礎を評価治療へ応用することができる。						試験	40%	
②障害のメカニズムを説明し、治療方法を立案することができる。						実技試験		
③嚥下障害に対して包括的なアプローチを学ぶことができる。						実習評価		
授業の概要						小テスト	60%	
教科書ベースのスライドを配布しますので、スライドに書き込みながら授業を行います。 授業の終了後とに確認プリントを配布します。各自取り組んでください。 各セッションごとに小テストを実施します。小テストは確認プリントから作成します。小テストの合計と前期後期の最終授業で行う試験を合算して成績をつけます。						レポート その他		
						計	100%	
教科書	摂食嚥下リハビリテーション第3版、最新言語聴覚講座 摂食嚥下障害学					履修条件、履修上の注意事項		
参考書	発声発語・摂食嚥下の解剖生理学							
授 業 の 計 画								
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当	
第1回	嚥下障害 introduction (摂食嚥下の生理)		望月	第1回	成人の摂食嚥下障害の対応		望月	
望月			第2回	〃		望月		
第3回	小テスト① 嚥下障害のintroduction (摂食嚥下のメカニズム)		望月	第3回	小テスト⑤ 間接的訓練 abstract		望月	
望月			第4回	〃		望月		
第5回	小テスト② 嚥下スクリーニング検査① abstract		望月	第5回	小テスト⑥ 間接的訓練 実践編		望月	
第6回	嚥下スクリーニング検査② 実践編		望月	第6回	直接的訓練 abstract		望月	
第7回	小テスト③ 嚥下内視鏡検査と嚥下造影検査 abstract		望月	第7回	〃		望月	
第8回	課題対応（見学実習のため）		望月	第8回	小テスト⑦ 直接的訓練 実践編		望月	
第9回	課題対応（見学実習のため）		望月	第9回	課題対応（評価実習のため）		望月	
第10回	課題対応（見学実習のため）		望月	第10回	課題対応（評価実習のため）		望月	
第11回	小テスト④ 嚥下内視鏡検査と嚥下造影検査		望月	第11回	課題対応（評価実習のため）		望月	
第12回	嚥下内視鏡検査 実践編		望月	第12回	嚥下調整食分類と段階的摂食訓練		望月	
第13回	嚥下造影検査 実践編		望月	第13回	小テスト⑧ 手術と補綴による対応 リスク管理と呼吸器疾患 栄養管理と栄養障害		望月	
第14回	重症度分類と各種scale		望月	第14回			望月	
第15回	総合テスト		望月	第15回	総合テスト		望月	

科目区分	専門	授業科目	補聴器		時間数	30	単位数	1
授業形態	☐ 講義演習 ☒ 実技含む ☐ 実験実習 ☐ 臨床実習				必・選	☒ 必修 ☐ 選択必修		
学期区分	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年		木 曜日 3、4 限		学 年	2年	講義室等	202
科目責任者	西野安男			科目担当者	西野安男			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	リオン株式会社40年在籍、聴能技術部で耳かけ補聴器、オーダーメイド補聴器、耳あな型補聴器設計 リオン補聴器相談室にて接客・フィッティング・販売 外部補聴器講習（宮城教育大、聖隷クリストファー、長野医療衛生専門学校、販売店 etc）							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法（割合）		
補聴器の基礎的な動作、調整、測定、評価方法を習得する。						定期試験	100%	
						実技試験		
						実習評価		
授業の概要						小テスト		
補聴器測定は学校にある機材にて実習を行う。 基本的な操作を行い機材に慣れ、現場で言われたないようが理解できる。						レポート		
						その他		
						計	100%	
教科書	補聴器の必要な人・不要な人					履修条件、履修上の注意事項		
参考書	補聴器のフィッティングと適用の考え方							
授 業 の 計 画								
〈 前 期 〉			担当	〈 後 期 〉			担当	
第1回				第1回	音の基礎的な性質		西野	
第2回				第2回	音の基礎的な性質		西野	
第3回				第3回	補聴器の概要		西野	
第4回				第4回	障害の種類と補聴器		西野	
第5回				第5回	AN,Lid/APD,HHLについて		西野	
第6回				第6回	補聴器の種類、特徴		西野	
第7回				第7回	補聴器測定の種類		西野	
第8回				第8回	規定選択法について		西野	
第9回				第9回	耳型採取について		西野	
第10回				第10回	補聴器の試聴		西野	
第11回				第11回	補聴器JIS、補聴器の測定方法		西野	
第12回				第12回	補聴器の測定		西野	
第13回				第13回	補聴器装用耳、調整方法		西野	
第14回				第14回	フィッティング事例		西野	
第15回				第15回	まとめ		西野	

科目区分	専門	授業科目	人工内耳		時間数	15	単位数	1
授業形態	■講義演習 □実技含む □実験実習 □臨床実習				必・選	■必修 □選択必修		
学期区分	■前期 □後期 □通年		土 曜日 1.2 限		学 年	3 年	講義室等	402
科目責任者	工 稜			科目担当者	吉村豪兼 権田綾子			
実務家教員としての経歴 (実務経験)	弘前大学医学部卒。同大学院医学研究科修了。医学博士。 母校の助手、信州大医学部耳鼻咽喉科准教授などをへて2021年6月に同科教授。							
授業のねらい、到達目標						成績評価の方法 (割合)		
・人工聴覚器の種類と適応を説明できる。 ・人工聴覚器の構造と機能を説明できる。 ・人工聴覚器のプログラミングの概要を説明できる。						定期試験	100%	
						実技試験		
						実習評価		
授業の概要						小テスト		
						レポート		
						その他		
						計	100%	
教科書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版					履修条件、履修上の注意事項		
参考書	言語聴覚士テキスト							
授 業 の 計 画								
〈 前 期 〉			担当	〈 前 期 〉			担当	
第1回	人工聴覚器の種類・適応とその特徴		工					
第2回	人工内耳手術のための中耳・内耳解剖 および各種検査		工					
第3回	人工内耳の適応となる難聴とその特徴 ～遺伝性難聴を含めて～		吉村					
第4回	人工内耳の種類・特徴と手術の実際		吉村					
第5回	人工内耳のしくみとマッピングの概要		権田					
第6回	その他の人工聴覚器の調整 聴覚障害児・者のリハビリテーション		権田					
第7回	各種マッピング理論と方法		権田					
第8回	マッピング演習		権田					
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								